

子供たちの可能性を引き出す

『令和の日本型学校教育』の学びの在り方（2年次）



令和6年

11/29（金）

オンデマンド配信
R6.12.19~R7.1.31



申込二次元コード

あなたの学ぶ姿が

子供の豊かな経験につながります！

講演

13:00 ~ 14:20

〈講師〉 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授
名古屋大学教育学部附属中・高等学校 校長

しばた よしあき

柴田 好章 氏

〈演題〉 納得感や充実感のある協働的な学びを求めて

～子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師集団の在り方～



研究発表・研究協議 14:30 ~ 16:30

第1部会（対象：小中高特）

自ら学ぶ力の育成に関する研究（中間報告）

- ◇育成すべき「自ら学ぶ力」についての解説
- ◇研究協力校で設定した「自ら学ぶ力」について、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の先生方への参考となる実践報告
- ◇児童生徒がAARサイクルを回すための解説

第2部会（対象：小中特）

全国学力・学習状況調査に関する研究

- ◇調査から分かる児童生徒の成果と課題及び実態の報告
- ◇学習改善・授業改善のポイントの紹介
- ◇授業アドバイスシートの解説

第3部会（対象：高特）

「探究の過程」を踏まえた授業の改善と充実に関する研究 県立高等学校教育課程課題研究（理科）

- ◇各科目における探究的な授業モデルの提案
- ◇学習評価からの指導法の改善や工夫の取組の紹介
- ◇探究的な授業づくりに向けた研究協議の在り方を提案

第4部会（対象：高特）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する研究 県立高等学校教育課程課題研究（英語）

- ◇「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、各学校で活用できる具体的な評価実践
- ◇研究員が実践で使用した振り返りシートや評価シート等の編集可能なデータの提供
- ◇小学校、中学校、特別支援学校の先生方にも参考となる実践です。

※対象校種は研究対象校種を示すものであり、どの部会も参加可能です。

申込方法 <https://apec.aichi-c.ed.jp/cms/page-1849/page-4662/page-5974.html>

所属長の了承を得て、令和6年11月18日（月）までに上記のURLまたは二次元コードからお申し込みください。後日、オンデマンド動画配信も行います。

期間限定YouTubeによるオンデマンド配信

- ◇「教育相談特別研修」研究報告動画
令和6年11月29日（金）9時から12月13日（金）17時まで

問い合わせ先 愛知県総合教育センター 研究部 経営研究室
電話 0561-38-9503（直通）

講演 講師 紹介 ・ 主な 著 書

【講師紹介】

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授、名古屋大学教育学部附属中・高等学校 校長
 研究領域は、教育方法学・教育工学。特に、授業分析・授業研究・教師教育の研究に取り組む。小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教室を訪問し、授業を観察・記録し、子供の思考過程や相互作用を分析している。各学校の授業研究や教育委員会や教育センターの研修・研究にも数多く関わる。近年の例では、愛知県教育委員会の「あいちラーニング推進事業」、愛知県総合教育センターの「教育研究リーダー養成研修」ならびに「自ら学ぶ力の育成に関する研究」、名古屋市教育センターの「高等学校学びの変革研修」を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進している。さらに、インドネシア、モンゴル、マレーシア、シンガポール、中国、韓国など、アジア各国において授業研究を実施している。また、社会科における問題解決学習の研究も推進し、日本文教出版「小学社会」を執筆している。

【主な著書】

- 『教育方法50 パンデミック禍の学びと教育実践：学校の困難と変容を検討する』（分担執筆、図書文化、日本教育方法学会編）
- 『小学社会科3・4年生用 副読本作成の手引き〔新訂版〕』（分担執筆、日本文教出版）
- 『Lesson Study』（共編者、ミネルヴァ書房、日本教育工学会 監修）
- 『教育方法45 アクティブ・ラーニングの教育方法的検討』（分担執筆、図書文化、日本教育方法学会編）



しば た よし あき

講師 柴田好章氏

研究主題・研究概要・研究発表関係者

| 研究主題 | 研究概要 | 研究発表関係者 |
|---|---|--|
| 第1部会 対象：小中高特 自ら学ぶ力の育成に関する研究 （中間報告） | これからの時代を生き抜く子供たちが身に付けるべき「自ら学ぶ力」について解説するとともに、研究協力校が研究の進捗状況を含め、自校の研究主題に基づき実践報告をします。また、児童生徒がAAARサイクル（A学習の見直しをもつ・R学習方略を身に付ける・R学習を振り返る）を円滑に回すためのポイントについて解説します。 | 指導助言者 柴田好章（名古屋大学大学院教授） 研究協力校代表委員 小野宏貴（江南・宮田小） 安田 了（豊川・中部小） 久田大輔（東浦・北部中） 山本弘文（幸田・幸田中） 林 佳宏（松平高） 鈴木佑治（豊丘高） 原 和太（岡崎豊） 研究所員（総合教育センター） 杉山寛仁 青木将司 三浦千加子 武田邦生 林 俊樹 伊豆原章人 渡辺美穂 小岩めぐみ 伊藤卓哉 |
| 第2部会 対象：小中特 全国学力・学習状況調査に関する研究 | 全国学力・学習状況調査の各教科における問題及び質問調査から分かる児童生徒の成果と課題及び実態を分析します。また、児童生徒の学力・学習状況の向上・改善のために「学力・学習状況充実プラン」を作成し、学習改善・授業改善のポイントを紹介するとともに、各教科の「授業アドバイスシート」を動画にて解説します。 | 指導助言者 新 育大（義務教育課） 横地喜之（総合教育センター） 谷川永里子（総合教育センター） 研究所員（総合教育センター） 杉山寛仁 山田和幹 林 俊樹 國松一彰 永田久恵 川口 晋 |
| 第3部会 対象：高特 「探究の過程」を踏まえた授業の改善と充実に関する研究 県立高等学校教育課程課題研究 （理科） | 高等学校理科の各科目において、生徒が探究的に学習を進めていく授業モデルを提案することを目指して研究を進めてきました。また、指導と評価の一体化を踏まえ、生徒の学習状況の評価から単元における効果的な指導の在り方について、工夫や改善に生かす取組も行ってきました。高等学校理科の授業づくりに当たって参考となる実践報告をします。 | 運営委員長 米津利仁（松平高 校長） 運営副委員長 稲垣知子（新川高 教頭） 中村羊大（鶴城丘高 教頭） 研究員 稲守将基（旭丘高） 杉山久美子（明和高） 川端亜美（愛知商高） 山本芳裕（瑞陵高） 水野亜美（松蔭高） 今井岳宏（瀬戸北総合高） 寺田祥子（春日井西高） 井戸一博（小牧南高） 中山義康（常滑高） 石神有介（大府高） 倉口 哲（岡崎北高） 伊藤雅也（安城高） 山本茂樹（時習館高） 鈴木唯史（豊橋南高） 木村和也（福江高） 運営委員（高等学校教育課） 櫻井正昭 伊藤 潤 辻本智子 運営委員（総合教育センター） 新 正司 磯貝大輔 原田学志 |
| 第4部会 対象：高特 「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する研究 県立高等学校教育課程課題研究 （英語） | 観点別評価の一つである「主体的に学習に取り組む態度」について、単元を通じた指導に基づき、妥当性と信頼性を確保した評価の在り方について研究しました。指導と評価の一体化の観点より、「思考・判断・表現」と一体的に行う評価や、振り返りシートを活用した評価等について実践と考察を行い、その研究成果を報告します。 | 運営委員長 南谷 守（尾北高 校長） 運営副委員長 井上健二（安城高 教頭） 研究員 久納知幸（惟信高） 伊左治里帆（瀬戸北総合高） 佐々木誠（春日井東高） 木下裕美（旭野高） 栗木裕子（尾北高） 藤本貴之（岩倉総合高） 村瀬美樹（丹羽高） 山下明子（木曾川高） 深澤 晶（東海南高） 田中恵美（阿久比高） 富田理恵子（岡崎北高） 橋本友紀（岡崎西高） 宮川 孟（吉良高） 清水 翼（時習館高） 運営委員（高等学校教育課） 森本芳裕 竹内賢一 武田尚士 運営委員（総合教育センター） 榊原啓文 武田邦生 |

オンデマンド配信

「教育相談特別研修」研究報告動画
 R6.11.29～R6.12.13

「教育相談特別研修」研究報告動画の内容については下記参照。※教育関係者のみ視聴できます。

- ・『特別な指導を必要とする生徒に対するチーム支援システムの構築
 ー実態と課題を共有する会議を通じた連携協働促進と支援シート開発の試みー』
- ・『心のゆとり感の効果 ー「心のゆとり感」と精神的健康度との関係ー』
- ・『高ストレス下でも適応感をもって生きる姿勢を育成するために
 ー高校生のハーディネスとソーシャルサポートに注目してー』

※対象校種は研究対象校種を示すものであり、どの部会も参加可能です。